

ぶどうのクビアカスカシバが多い

～ 園地内の見回りを行い早期発見に努めましょう ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

6月1～3半旬の防除適期決定ほにおけるクビアカスカシバ雄成虫の総誘殺数は横手市大沢地区で107頭（平成4.0頭）、横手市十文字地区で59頭（平成4.7頭）でいずれも多かった（図-1、2）。

今後クビアカスカシバ幼虫（図-3）による食入被害（図-4）が多くなると懸念されるため、早期に園地内の発生状況を確認し、食入防止対策を実施する必要がある。

2. 防除対策

1) 耕種的防除

- ・粗皮があると食入されやすく被害が発見しにくいいため、粗皮剥ぎを行う。
- ・幼虫の食入時期は7月上旬～10月上旬で、食入幼虫数は8月に多い。本年は7月の食入も多いと予想されるため、7月上旬より園地内の見回りを継続的に行い被害の早期発見に努め、幼虫は速やかに捕殺する。

2) 薬剤による防除（表-1）

（1）幼虫の食入防止対策として、6月4～5半旬と7月中旬頃に防除を行う。

- ・フェニックスフロアブルの1回目散布適期は、クビアカスカシバ成虫（図-5）の捕殺が確認されてから14～20日後の6月4～5半旬頃と予想される。
- ・2回目散布は7月中旬頃に実施する。ただし、果粒大豆大期以降は果粉溶脱のおそれがあるので注意する。
- ・粗皮があると薬剤処理の効果が劣るため、粗皮剥ぎを行ってから処理する。
- ・スピードスプレーヤで散布する場合は、枝幹に十分に薬液がかかるように散布する。主幹基部は薬液がかかりにくいいため同日に補完散布を行う。ただし、既にガットサイドSを処理している樹では補完散布は必要ない。

（2）フェニックスフロアブル処理後も幼虫の食入被害が見られる場合は、虫糞排出が認められる食入孔へロビンフッドを処理する。

- ・ロビンフッドを処理する際は、幼虫に薬液が到達するよう、虫糞や粗皮を剥ぎ食入孔の向きを確認してから処理する。なお、ロビンフッド処理後も園地内の見回りを継続し、虫糞の排出が確認された場合は再度ロビンフッドを処理する。

3. 資料

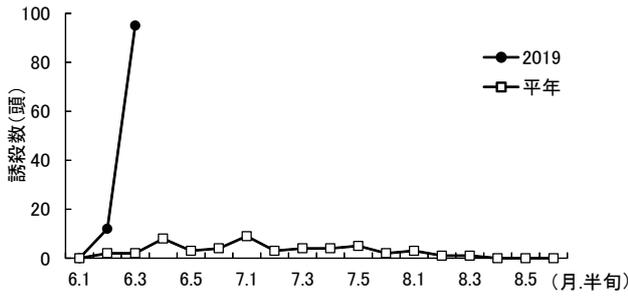


図-1 防除適期決定ほ(横手市大沢)におけるクビアカスカシバの誘殺状況

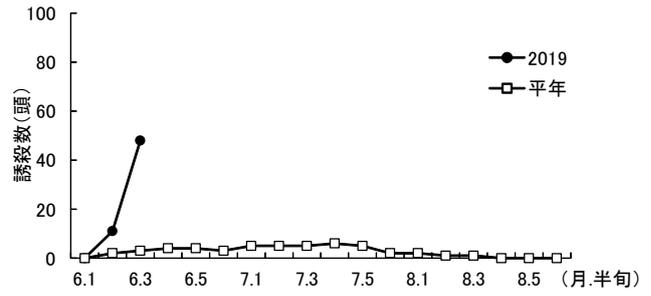


図-2 防除適期決定ほ(横手市十文字)におけるクビアカスカシバの誘殺状況



図-3 クビアカスカシバ老齢幼虫



図-4 クビアカスカシバ幼虫による食入被害(虫糞)



図-5 クビアカスカシバ雄成虫

表-1 クビアカスカシバの防除薬剤

分類	農薬名	希釈倍数	処理時期・処理方法	使用回数	各成分の総使用回数
a	ガットサイドS	1.5倍	6月中下旬に主幹部に塗布または散布	2回以内	ア
i	フェニックスフロアブル	4,000倍	6月中下旬と7月中旬頃に散布	2回以内	3回以内 ※1
c	ロビンフッド	原液	7~10月(虫糞排出確認時)食入孔へ噴射	5回以内	7回以内 ※2

分類 a:有機リン剤 c:合成ピレスロイド剤 i:ジアミド系剤

各成分の使用回数

ア:MEP(4回以内(収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内))

※1: 3回以内(樹幹散布は1回以内、散布は2回以内)

※2: 7回以内(但し、噴射は5回以内、散布は2回以内)

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL	018-881-3660
秋田県果樹試験場	TEL	0182-25-4224
かづの果樹センター	TEL	0186-25-3231
天王分場班	TEL	018-878-2251
掲載HP	https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/	